

ふるさと米子 探検隊

第3号 お寺や神社を調べてみようの巻
2005年3月30日



お寺や神社を調べてみよう

編／発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

<http://lib.yonago-city.jp/lib/>

みなさんの家の近所に、お寺や神社がありませんか？ 広い場所に大きな建物が建っていますね。きっとその境内で遊んだこともあるでしょう。あの建物の中には何があるのかなあ、どうしてそこにあるのかなあ、と不思議に思ったことはありませんか？ お寺にはお坊さんがいたり、お墓があつたりしますね。神社にはお祭りがあつたり、お祈りしたりしますね。お寺も神社も、そこに住んでいる人たちの身近なところにあって、人々の生活になくてはならない大切な場所のようですね。

皆さんの住んでいる近くのお寺や神社には、どんなものがありますか？ お地蔵さんや小さな祠、大きな伽藍(建物のこと)のお寺まで、いろいろな種類のものがあるでしょう。この号では、調べ方の要点をまとめました。きっと、皆さんのがんばります。

お寺や神社を調べてみると、今まであまり知らなかった米子の町の歴史が分ってきます。すると今までよりもっと米子の町が好きになり、ふるさとが大切なものに感じられるようになります。昔のことを知ると、心が強くなってくるのです。

探検隊の参考資料

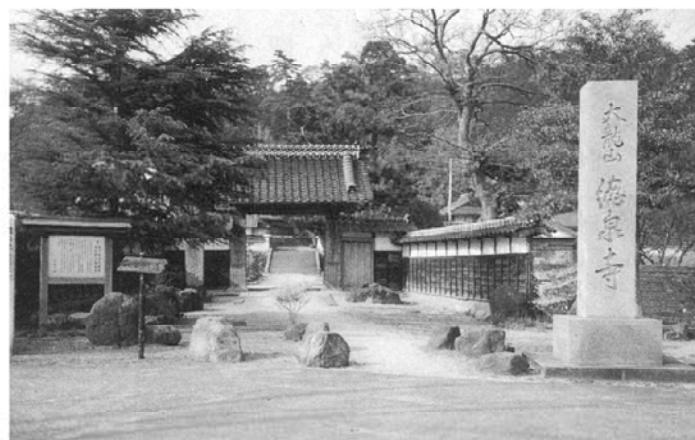
図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・「新修 米子市史 第2巻(通史編 近世)」米子市史編さん協議会／編 米子市
2004 Y224/Y19
- ・「新修 米子市史 第5巻(民俗編)」米子市史編さん協議会／編 米子市 2000
Y224/Y19
- ・「よなごのお寺」米子仏教会／編・刊 1991 Y18/Y4
- ・「伯耆三十三札所」立花書院／編・刊 1996 Y18/T8-2
- ・「鳥取県神社誌 米子市・西伯郡・日野郡」鳥取県神職会／編・刊(1934年刊の複写版)
Y17/T1-3
- ・「米子のふるさと散歩」米子市立山陰歴史館運営委員会／編 米子錦ライオンズクラブ
1998 Y224/Y2-8

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料の配列場所を示しています。図書館にはこの他にもたくさんの資料があります。)

お寺を調べてみよう

淀江町にある上淀廃寺を知っていますか。1992年の発掘調査で、この廃寺は、7世紀後半から始まった白鳳文化を背景に建てられた、りっぱな大伽藍だったことが明らかになりました。佛教が日本に伝わってから、まだ間もない頃に、私たちの住む山陰にもこんなりっぱなお寺があったことに驚かされます。また、探検隊第2号「米子城 入門の巻」では、江戸時代初めの米子の町づくりと、数多くのお寺の建立が深く結び付いています。今回の探検隊では、米子市内の有名なお寺を例にして、何を、どんなふうに調べたらよいのかをガイドします。さあ、探検に出かけましょう！



総泉寺について

名前と住所

大龍山総泉寺
(宗派・曹洞宗)

米子市愛宕町38番地
中村忠一が米子城主として米子にやって

きた頃、亡くなった母・曹渓院清心総泉大師の靈をまつるために建てたお寺です。寺の名前もこの戒名(仏教で亡くなった人に付ける名前)に由来するものです。

1) たくさんのお坊さんが集まって修行する「地方の総本山」でした。総泉寺からは、二十一ヵ寺もの末寺(分家)が生まれています。1696年(元禄9)には西伯耆三郡(会見・日野・汗入)の僧録所(禅宗寺院のまとめ役の寺)にもなりました。

2) お寺の前の道は「出雲街道」(探検隊2号の地図)です。総泉寺には、松江方面から米子の町に入る者を見張る砦の役割もあったようです。

3) 1873年(明治6)、学校制度が始まった時、明道小学校は総泉寺の禅堂を仮校舎としてスタートしました。

お寺の歴史

1) たくさんのお坊さんが集まって修行する「地方の総本山」でした。総泉寺からは、二十一ヵ寺もの末寺(分家)が生まれています。1696年(元禄9)には西伯耆三郡(会見・日野・汗入)の僧録所(禅宗寺院のまとめ役の寺)にもなりました。

2) お寺の前の道は「出雲街道」(探検隊2号の地図)です。総泉寺には、松江方面から米子の町に入る者を見張る砦の役割もあったようです。

3) 1873年(明治6)、学校制度が始まった時、明道小学校は総泉寺の禅堂を仮校舎としてスタートしました。

有名人のお墓

1) 大谷甚吉 江戸時代の貿易商人。1617年(元和3)越後の国(今の新潟県)から帰る途中、暴風雨にあい無人島に流れ着きました。今の韓国(うつりょうとう)の鬱陵島です。甚吉は何とかの渡海で、この島から多くの海産物を持ち帰りました。

2) 山内東園 江戸時代末の鳥取藩士。江戸時代の米子に伝わる怪談集「米府鬼話」の著者です。

3) 村雨退二郎 本名・坂本俊一郎。倉吉市生まれの小説家。1920年代は農民運動で活躍、その後時代小説家として多くの作品を発表しました。

その他の特徴

寺の入口の「みそなめ地蔵」があります。地蔵の手前の手水鉢の水をいばにぬると、いばがとれるのだそうです。本当にとれた時(願開き)には地蔵に味噌をぬったそうです。

瑞仙寺について

名前と住所

久坂山瑞仙寺
(宗派・曹洞宗)

米子市寺町56番地
14世紀の終わり頃、伯耆を支配した有力大名・山名氏の支援で、日下村に建立さ



お寺の歴史

創建当時は、伯耆に六ヶ寺、隠岐に十三ヶ寺もの末寺(分家)を持つ大きな寺でした。寺町瑞仙寺の開山時の祖全和尚は名僧として慕われ、寺町の福嚴院、法藏寺、日吉津・養光院のお寺を開きました。

2) 境内には開基(寺を創建した人)山名氏の陣中守り本尊であった「金毘羅大権現」が、山門鎮守としてまつられています。

3) 義方小学校は、瑞仙寺の禅堂から始まりました。

1) 児玉玉立 江戸時代後期の書家。別名・御来屋玉立。貧しい暮らしの中で独学で書を学び、多くの弟子に慕われる大家になりました。

2) 西村伝九郎 幕末から明治にかけて活躍した荒尾家の家臣です。

3) 野坂寛治 米子市の三代目市長。太平洋戦争後の大変な時期に市長として活躍し、その後の米子市政に大きな影響を与えました。米子の有力な事業家であった父・茂三郎もここに眠っています。

その他の特徴

1) 寺町の瑞仙寺の横には、九つのお寺が並んで建っています。「探検隊」第2号「米子城 入門の巻」の地図を見ると良く分ります。これは、お城の北側を守る「砦」の役割を果すためでした。城作りに合わせて、寺院の配置にも工夫がされていたことが分かります。

《お寺と学校》

明治の新政府によって「学制」(学校制度)が公布されたのが1872年(明治5)、翌年1873年(明治6)には、鳥取県内にも中学校区と小学校区が定めされました。

米子の町では多くの小学校が、お寺のお堂を使って仮校舎としました。

明道小学校 → 大工町 総泉寺(当時は愛宕町ではありません)

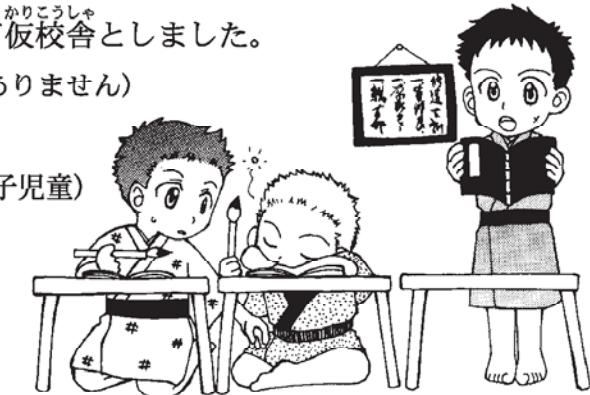
発蒙小学校 → 博労町 光西寺(後に明道小に合併)

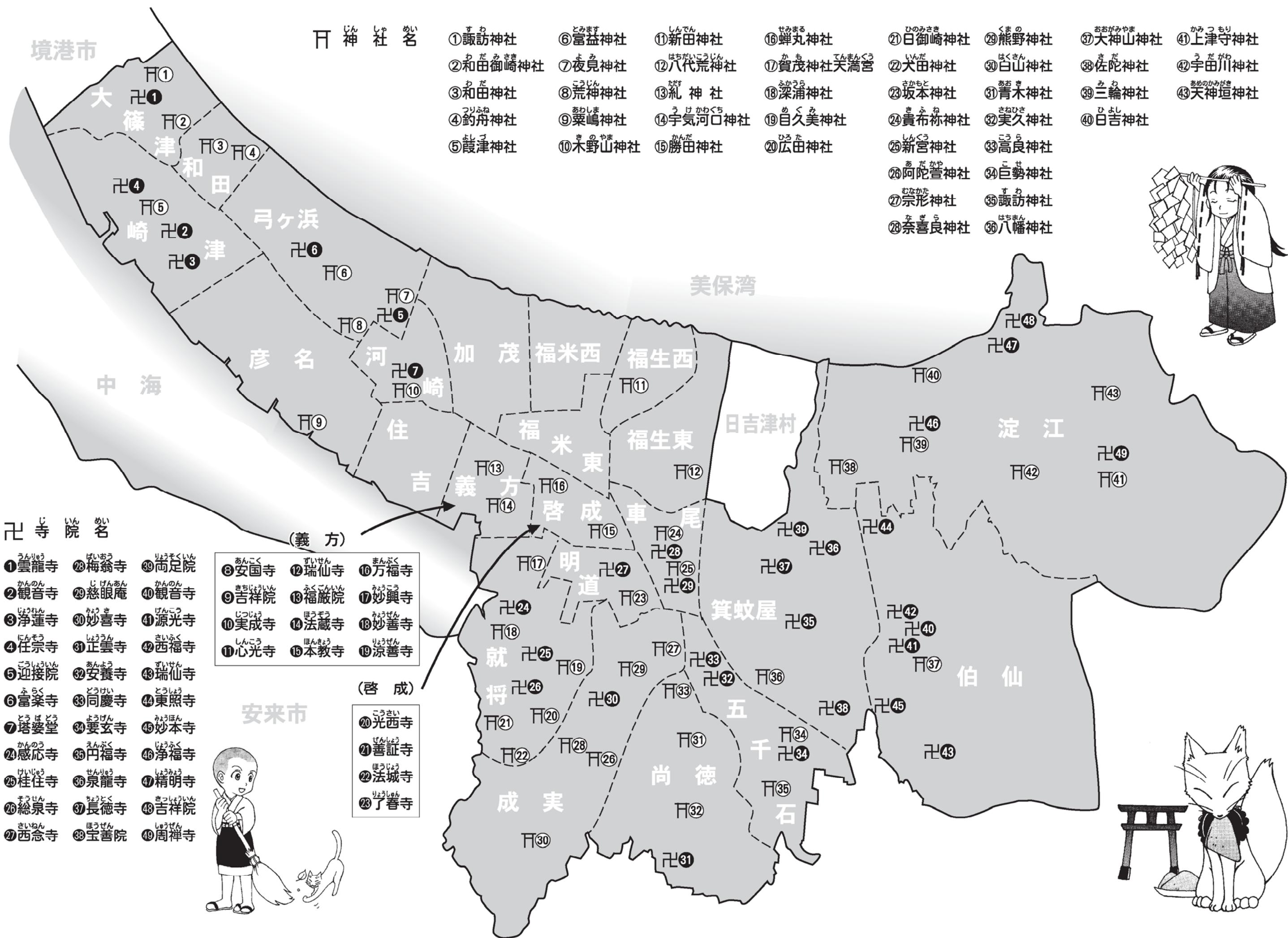
義方小学校 → 寺町 瑞仙寺と安國寺(義方小の男子児童)

知新小学校 → 岩倉町 本教寺(後に寺町妙善寺へ)

義方小の女子児童)

車尾小学校 → 車尾村 梅翁寺





神社を調べてみよう

お正月には、初詣で近くの神社にお参りする人も多いでしょう。家内安全や健康祈願、受験合格など、いろいろなお願いごとをしますね。では、神社にはどんな神様がお祀りしてあるのでしょうか。ご先祖を神として祀る氏神様、古代の神話に出てくる命をお祀りした神様、赤い鳥居にキツネの像のあるお稲荷さん、受験生には大人気の菅原道真公を祀った天神様。まだこの他に、田の神様やら道祖神まで、小さな祠にお住まいの神様まで数えると、文字通り八百万といえるほどです。ここでは、米子の代表的な神社を例に、神社調べの要点をガイドします。さあ、探検に出かけましょう！

勝田神社について

名前と住所

勝田神社
米子市博労町2丁目



祭神の名前

天忍穗耳命
(あまのおしほみのみこと)

天照大御神(あまたらすおおみかみ)

素戔鳴尊(すさのおのみこと)

神社の歴史

1) はじめは境港の外江町、それから境港の新屋に移されました。当時は勝田上総介四郎(かつたかずさのすけしろう)を祀ってあったといわれています。江戸時代になり、米子城主中村忠一の時、米子の勝田山(元勝田)に移されました。それは米子城の鬼門(鬼が出入るとされる東北の方角)を守る神様として、また弓ヶ浜一帯の人々の信仰を集めためであったともいわれています。

2) 勝田山から今の場所に移されたのは、次の米子城主・加藤貞泰時代のことです。江戸時代は、勝田大明神とよばれ、米子城下総産土神(生まれた土地を守って下さる神様)として、とてもにぎわったそうです。(遷座〔神社の引越〕の時期についてはいろいろな説があります)

お祭り

1) むかしの祭日は3月と9月の15日で、3台の神輿が町中をめぐり、たくさんの見物人でにぎわったそうです。

2) 今の祭日は、4月と10月の15日です。

《勝田上総介四郎について》

勝田四郎は、石見国(今の島根県)から弓ヶ浜地方にやって来て、荒地の開墾に尽くした人だといわれています。「勝田四郎と鬼が沢」というテーマで、いくつもの伝説が語り継がれています。こんな本で調べてみましょう。

「弓浜民談抄」佐々木謙 稲葉書房 1973 09225/S2-5

「新修 境港市史」境港市 1997 Y225/S3-7/1

「勝田四郎の伝説」山本美千枝／編・刊 1993 Y38/Y12

賀茂神社天満宮について

名前と住所

賀茂神社天満宮
米子市加茂町2丁目
212番地

祭神の名前

主祭神 別雷命
(わけいかずちのみこと)

神社の特徴

菅原道真命(すがわらのみちざねのみこと)
1) 元は米子城内にあり、城の鎮守の八幡宮として、代々の城主から大切にされました。1680年(延宝8)に今の敷地に移され、1868年(明治元)に賀茂神社となりました。

2) 米子の町中にあった古い神社が、明治・大正・昭和の時代に次々と合祀されたのが賀茂神社の特徴です。稻荷神社、北野神社(天満宮)、萬能神社、恵比寿宮、湊山八幡宮、榎大神宮、米原神社などです。合祀とは、祭神をいつしょにお祀りすることです。1961年(昭和36)、北野神社(天満宮)と稻荷神社を合祀した時から、名前が賀茂神社天満宮に改められました。

1) 江戸時代のお祭では、神輿が町内を巡り、深浦の祇園神社の前から船に乗り、加茂川の河口で再び陸に上がり内町を通って帰ったそうです。この行事(海上渡御)を見物するために、たくさんの船が出るほどにぎわいだつたそうです。武家の信仰が厚かった賀茂神社では、明治になって士族が没落したため、この行事ができなくなったと伝えられています。

賀茂神社に合祀される前の北野神社(天満宮)では、この海上神事の行事を、昭和20年代まで続けていたそうです。

2) 現在のいちばん大きなお祭は、7月24・25日の夏祭り神幸祭です。

《地名伝説と賀茂神社》

「よなご」という地名が、いつ頃からあるのか、なぜ「よなご」と呼ぶようになったのかは、いろいろな説があります。その中には、賀茂神社が登場するものがあります。

- ・神社の境内に、「よなぐ井」という井戸があり、この呼び方が、「よなご」という地名のもとになったという説。

- ・賀茂神社の隣に住んでいた粟島村の長者の子が、88歳になってようやく子どもが生まれて子孫が栄えた、という言い伝えから、八十八にちなんで米子になったという説。

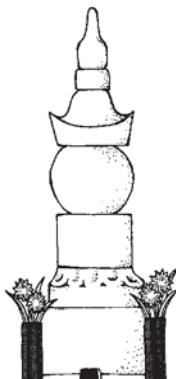
こういうお話を語り継がれ、今も残っているということは、賀茂神社天満宮の歴史がとても古いということですね。



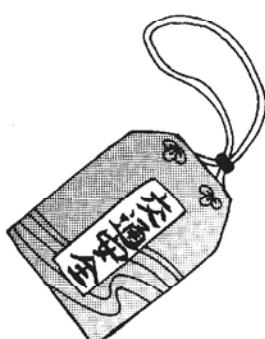
探検の記録を付けよう！

米子市内には、探検隊3号で紹介したほかにも、たくさんの神社やお寺があります。
小さなお地蔵さんやお堂、祠などにはちゃんとした昔の記録がないこともあります。
公民館に聞きに行ったり、近所に住んでおられるお年寄に聞く方法もありますね。大きな社寺では、ご住職や神主さんに直接聞くのもよいでしょう。

このページを使って、探検の記録を付けてみましょう。



◎お寺や神社の 正しい名前／住所



◎お寺や神社の 建てられた由来



◎お寺や神社の 歴史と特徴

◎お寺や神社の お祭りや行事

◎そのほかに調べたこと

◎写真や参考にした本の名前

調べた年月日

年 月 日

学校名

年 組 名前

このページをコピーして、自分で調べた記録を書き入れてください。
みんなの学校図書館に置いてある、「ふるさと米子 探検隊」のファイルに綴じてく
ださい。
記録を保存して、新しい探検の資料にしましょう！

(イラストは難波康子さん)